様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　４ 年　５ 月 ２７ 日現在

機関番号：１０１０１
研究種目：若手研究
研究期間：2019～2021
課題番号：１９Ｋ１４０４９

研究課題名（和文）明治期の高等教育機関への進学経路と選抜制度に関する歴史的研究

研究課題名（英文）Historical research on the route to higher education and the selection system in the Meiji era

研究代表者
廣瀬　公彦（Hirose, Kimihiko）

北海道大学・大学文書館・特任助教

研究者番号：７０８２８４２５

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,900,000円

研究成果の概要（和文）：東北帝国大学農科大学大学予科（1907年～1918年）の入学者選抜試験の試験制度と実施内容を調査し、志願者資格、試験日程、科目、場所、志願者数・入学者数、合格基準点の変遷や、高等学校無試験検定規程の適用過程をとりまとめた。また、高等学校長会議についての調査により、会議において、高等学校の選抜試験に関わる日程・科目・合格基準点・『官報』への入学許可者掲載方法等の諸事項の他、東北帝国大学農科大学大学予科の試験日程に関する決議をおこなっていることを確かめた。あわせて、予科卒業者の回想記事や自伝を調査して志望動機や受験生活に関わる記述を収集し、志願者側の進路決定の過程に関する分析をおこなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義
旧制高等学校の入学者選抜試験に関する研究は膨大にあるが、類似した教育階梯にある大学予科に関するものはほとんどみられない。東北帝国大学農科大学大学予科（1907年～1918年）の入学者選抜試験の制度と実施内容をとりまとめたことにより、その一端を明らかにした。また、高等学校長会議への参加状況と決議事項の調査を通して、東北帝国大学農科大学大学予科の入学者選抜試験について、高等学校と関わらせて論じる妥当性を得た。本研究により、従来は高等学校を対象としてきた高等教育機関への入学者選抜試験制度史の研究を、大学予科を含めて拡張し展開するものと考える。

研究成果の概要（英文）：I investigated the system and implementation contents of the entrance examination for the College Preparatory School of the College of Agriculture of Tohoku Imperial University. I summarized the applicant qualification, examination schedule, subject, place, number of applicants, passing standard points. According to a survey of high school directors' meetings, It was confirmed that a resolution was made regarding the examination schedule of university preparatory courses, as well as various matters such as the schedule, subjects, passing criteria related to the high school selection test. At the same time, I investigated the recollections and autobiographies of the graduates of the preparatory course, collected the descriptions related to the motives for the aspirations and the life of the examinees, and analyzed the process of deciding the course on the applicant side.

研究分野：教育学

キーワード：東北帝国大学農科大学　大学予科　旧制高等学校　入学者選抜試験

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

高等教育機関である旧制高等学校の入学者選抜試験制度史については、多くの研究の蓄積がある。増田幸一・徳山正人・斎藤寛治郎『入学試験制度史研究』（東洋館出版社、1961 年 3 月）や筧田知義『旧制高等学校教育の成立』（ミネルヴァ書房、2009 年 7 月）が、法令をつぶさに追いながら制度史を詳述している。佐々木享『大学入試制度』（大月書店、1984 年 11 月）は、無試験検定、地方入試等の諸相まで論を深めた。吉野剛弘『近代日本における「受験」の成立　「資格」試験から「選抜」試験へ』（ミネルヴァ書房、2019 年 2 月）は、入試問題講評や予備校へと研究の対象を広げた。

帝国大学への進学経路にあたる点で高等学校と同等の教育階梯として、東北帝国大学農科大学（1907-1918 年、以下、東北農科大と略す）が附属した大学予科がある。卒業後の進入先が基本的に東北農科大に限定される点で高等学校とは相違する一方で、中学校卒業者を入学資格として修学年限 3 年の課程を終えた後に帝国大学へ進む点では高等学校と同様であった。江津和也「東北帝国大学農科大学附属大学予科に関する一考察――大学令施行(1918 年)以前における帝国大学予科の性格」（『早稲田大学大学院教育学研究科紀要』別冊 11 号―2、2004 年 3 月）は、特定大学の予備教育機関である制度上の性格と学科課程において高等学校との違いがみられる一方で、教員の身分・待遇や生徒の修業年限・入学資格等においては高等学校と全く同一であったと述べる。

ただ、東北農科大予科については、前述の高等学校の入学者選抜試験制度史においては対象の外となり、それ自体もしくは比較対象として触れられることがほとんどない。帝国大学への進入経路にあたる教育階梯における入学者選抜として、東北農科大予科を対象に含めた考察が必要といえる。

２．研究の目的

本研究は、東北農科大予科の入学者選抜試験制度について調査し、高等学校と比較することにより、従来「高等学校の入学試験制度」として扱われてきた帝国大学への進学経路の研究を拡張することを目的とした。

具体的には、対象時期を東北帝国大学農科大学期（1907-1918 年）とし、東北農科大予科の志願者資格、入学試験日程、科目、場所、志願者数・入学者数等をとりまとめることにより、東北農科大予科の入学者選抜試験の実施概要を分析することである。高等学校については、高等学校長会議の決議録を調査し、東北農科大予科に関わる決議内容を明らかにする。

あわせて、入学志願者の志望動機、学業履歴、受験生活、受験場所について調査し、受験者の実相を明らかにすることとした。同窓会誌『札幌同窓会誌』を資料として、札幌農学校予修科（1898-1906 年）、東北農科大予科入学者の回想記事を調査する。これは、試験制度に対して、志願者の具体相を明らかにするものである。

３．研究の方法

（1）東北農科大予科の入学者選抜試験の概要と志願者の調査

東北農科大予科の入学者選抜試験に関する資料として、東北農科大の教務部作成文書を北海道大学大学文書館が所蔵しており、入学者選抜試験委員会の議事録、募集要項や入学許可者を『官報』に発表する際の起案書等の文書を含む。また、東北帝国大学が作成した教務書類を東北大学史料館が所蔵しており、入学試験について東北農科大と交わした文書を含んでいる。

日程、場所、科目等の試験概要に関する資料として、募集要項や入学許可者を掲載した『官報』がある。

その他、高崎商科大学図書館の所蔵する受験雑誌『中学世界』には、東北農科大予科の受験体験記や、入学試験に関する質問が掲載されている。

入学志願者に関する資料として、北海道大学大学文書館が入学願書を所蔵しており、氏名、出身中学校等がわかる。また、同館所蔵の同窓会誌『札幌同窓会誌』の記事中に、入学試験の回想を含む場合がある。

本研究では、上記資料を悉皆的に調査し、試験日程、時間、科目、配点、場所等の入学試験の概要、志願者の志望動機と受験生活の様子を検討した。検討結果に基づいて論文を作成し、紀要に発表した。

（2）高等学校長会議の調査

高等学校長会議の開催日程と諮問事項は、毎年度の『文部省年報』に掲載された。新聞記事には、開催場所、参加者、日毎の議題等、より詳細な内容を記している場合がある。

その他、毎年度の開催通知、諮問事項、決議事項、配付資料を綴った簿書を熊本大学五高記念

館が所蔵している。
本研究では、上記資料を悉皆的に調査し、諮問事項と決議事項、東北農科大の参加状況をとりまとめ、論文を作成して紀要に発表した。

４．研究成果

(1) 東北農科大予科の入学者選抜試験の概要

「帝国大学期簿書」（北海道大学大学文書館所蔵）を悉皆的に調査し、東北農科大予科の入学者選抜試験の制度と実際を分析した。同校の規程では中学校卒業者と専検合格者に順位を設けず志願者資格を与えていたが、調査した範囲では若干名の専検合格者や留学生を除き、志願者は中学校卒業者であった。1911 年には、学則改正により高等学校の「無試験検定規程」（1910 年 4 月 14 日付、文部省令第 11 号）が適用されることとなったが、適用を稟請した際の手続きを文書により辿ることができた。
選抜試験の日程は、1912 年、1913 年の日割を確認し、そこから『官報』掲載の試験開始日から 2 日間を体格検査にあて、その後に学科試験を毎日の午前におこなったと推測した。
合否の判断基準については、1911 年の入学志願者選抜試験委員において、1 科目でも満点の 4 分の 1 を下回る場合は入学を許可しないという方針を示した。ただし、物理で満点の 4 分の 1 未満の得点になった場合に数学の得点で補う例外措置もとられた。1914 年度の同委員において、１科目までであれば「斟酌」する方針へと変更した。
試験会場は札幌と東京に設けられたが、入学願書の残る志願者の 9 割が東京での受験を希望しており、1907 年度志願者全体の統計より推して、この割合は全体でも変わらないと推測した。東北農科大予科は、主に東京において受験者を獲得していたといえる。
また、「帝国大学期簿書」所収の入学願書綴を調査し、『官報』彙報欄に掲載されない入学許可取消や補欠合格の人数を確かめることができた。

(2) 札幌農学校予修科、東北農科大予科の入学志願者の志望動機と受験生活

入学志願者の実相を明らかにするため、同窓会誌『札幌同窓会誌』の記事を調査し、志望動機と受験生活に関わる記事を分析した。なお、東北農科大予科とあわせ、札幌農学校予修科も対象とした。
札幌農学校予修科入学者の志望動機として、志願者が中学校在学中に内村鑑三『How I Became a Christian』、志賀重『日本風景論』、札幌農学校学芸会『札幌農学校』に接したこと、中学校の教師となっていた河村九淵（札幌農学校第 4 期生）、河南休男（第 11 期生）、山田幸太郎（第 12 期生）等の卒業生に影響されたことがみられた。岩谷謙吉（第 17 期生）による学校案内冊子『札幌農学校』の貸与等、各地の卒業生による推奨活動がみられた。
予修科入学者の受験生活として、1900 年の試験会場が東京外国語学校であったこと、1904 年の無試験入学許可通知の内容と許可日程が判明した。
東北農科大予科入学者の志望動機として、卒業生の講話、校風へのあこがれ、卒業生の子息であることや、幼少期から札幌農学校の近くで過ごした生育環境も理由として挙がった。中学校教師による紹介では、札幌農学校卒業者の他、東京外国語学校を卒業した細江逸記による推薦もみられた。
予科入学者の受験生活として、中学校卒業後に上京して予備校に入校する者がいる一方、来札して青年寄宿舎(農科大学教授宮部金吾設立の私設学生寮)に入学前から入舎する者もみられた。『官報』に掲載した入学許可者の掲載順序が 1907～1911 年については成績順であることを確かめた。

(3) 高等学校長会議

高等学校長会議は、文部省が毎年 4 月～5 月に招集した。
新聞記事および教職員の履歴資料（北海道大学大学文書館所蔵）を調査し、東北農大予科の出席状況を調査した。その結果、1908 年は宮部金吾（農科大学教授）、1909 年～1911 年は溝淵進馬（予科教授、予科主任）、1912 年～1917 年は渡辺又次郎（予科教授、予科主任）が出席したことが明らかになった。東北農科大予科は、1908 年以降毎年の高等学校長会議に出席したことになる。
高等学校長会議では毎年度の決議事項の大部分を入学者選抜試験が占め、会議の主要な議題であった。高等学校の選抜規程、募集要項、『官報』に掲載する「学生募集」記事についての決議をおこなった。
会議の決議事項には東北農科大予科に関するものもあり、1909 年、1910 年は東北農科大予科および第七高等学校造士館、1911 年～1916 年は東北農科大予科の選抜試験を他の高等学校に先んじて実施する旨の決議をおこなった。
上記の研究により、東北農科大予科の入学者選抜試験の実施が高等学校の選抜試験と関わりを有することを明らかにした。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計3件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　3件）

１．著者名 廣瀬公彦	４．巻 17
２．論文標題 1907年～1917年の高等学校長会議における諮問事項と決議事項	５．発行年 2022年
３．雑誌名 北海道大学大学文書館年報	６．最初と最後の頁 30-74
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 廣瀬公彦	４．巻 16
２．論文標題 札幌農学校予修科・東北帝国大学農科大学大学予科の入学者の志望動機と受験生活	５．発行年 2021年
３．雑誌名 北海道大学大学文書館年報	６．最初と最後の頁 1-22
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 廣瀬公彦	４．巻 15
２．論文標題 東北帝国大学農科大学大学予科の入学者選抜試験	５．発行年 2020年
３．雑誌名 北海道大学大学文書館年報	６．最初と最後の頁 27-76
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

〔学会発表〕　計0件

〔図書〕　計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

北海道大学大学文書館年報 https://www.hokudai.ac.jp/bunsyo/publication.html

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関